市川二中五十年史

市川二中五十年史

市川二中五十年史

目次

0 口絵

ご挨拶……1

凡　例

歴代校長 -……10

はじめに　占領下に誕生した新制中学　六三制の制定……11

Ⅰ 創立以前……19

第二中学校周辺の歴史と風土……21

Ⅱ 昭和二十年代　校舎の歴史……27

太平洋戦争から市川市立第二中学校の誕生まで……29

真間小学校校舎での出発……32

父母と先生の会(PTA)の発足……37

学校生活のこと……51

校舎の歴史……75

木造校舎の変遷……77

鉄筋校舎の変遷……90

Ⅲ 昭和三十年代……99

科学技術振興と道徳教育……101

Ⅳ 昭和四十年代……119

Ⅴ 昭和五十年代……141

Ⅵ 昭和六十年代～平成九年代……165

在校生寄せ書き……193

年　表……213

資料提供者・協力者一覧　編集・執筆者一覧　参考文献……216

同窓会の再発足……218

編集後記……220

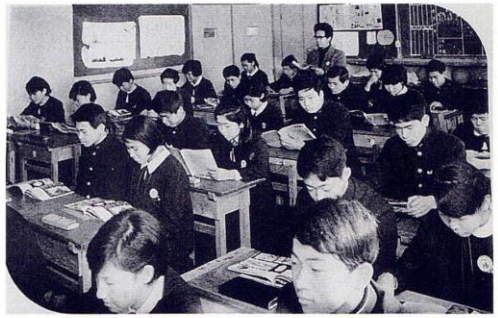
水泳大会（昭和61年）

登校風景（昭和42年）

栄光の足跡

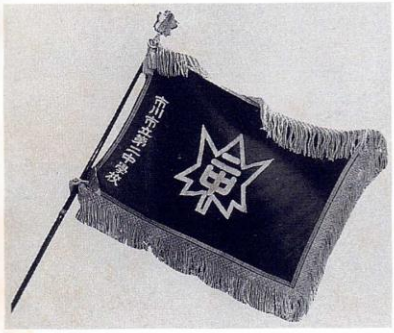
全校棒引き（平成７年）

授業風景 理科の実験（平成７年）



秀才揃いの授業（昭和42年）

須和田祭（昭和61年）



校歌

平井保喜 作曲
濱田佐賀衛 作詞

一 須和田が丘に聳え立つ
わが学舎のはらからは
いにしへ人の由縁ある
真間の真名井の真清水の
浄く明るく真きを心に

二 聞けや名に負う鴻の台
松の緑のひさしほに
常磐の調べさやけきを
明け暮れここにそしみて
いざ敏く分けむ文の林を

三 見よや都の曙に
紅映ゆる市川の
栄ゆく末を擡げ起ち
花咲き匂ふ学園に
燃ゆる希望の
若人 われら

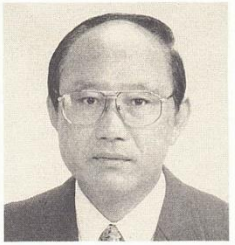
昭和29年頃

創立25年頃の航空写真（昭和46年）

市川二中周辺の航空写真（平成９年）

二中全景（平成７年）

ご挨拶



創立五十周年を迎えて

校長　中山　廣璋

六・三制の発足とともに昭和二十二年五月十日、真間小学校の一部を借用して開校した本校が、ここにめでたく五十周年を迎えることができましたことは慶びの至りであります。

戦後の混乱と不備のなか、新しい教育理念の実践と校風の樹立に向け鋭意努力され、礎を築かれた創立当時より、これまで本校の学校づくりにご尽力いただいた歴代の関係各位に心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

校歌の一節に「いにしえ人の由緒ある真間の真奈井の真清水の……」とあるように、本校は近くに万葉に詠まれた手古奈の井戸があり、緑に囲まれた須和田が丘という高台に位置し、静かで空気も清く学習には最適の環境にあります。本校五十年の歩みはこの落ち着いた教育環境、地域と人があればこそであり、学習や文化・スポーツにおける輝かしい実績を紐解き眺むれば歴史や伝統の重みを強く感ぜずにはいられません。また、この『五十年史』の編纂は創立初期の卒業生を中心に五十年間の軌跡を残したいという強い機運の高まりにより刊行できたわけで、このことに鑑みても卒業生はもとより、地域・保護者の本校への愛情、期待と関心の強さをひしひしと感じます。

本校の教育目標は『ひとりだちの気概に満ちた生徒』であり、二十一世紀に生きる若者には、より主体的、意欲的にとりくむことのできる人間であってほしいと願っています。生徒の興味・関心・意欲と地域の教育力を基礎に展開する須和田祭の様々な体験学習、そして環境教育活動は、より意欲的な学習・高め合う集団・活力ある活動を推進し、生徒の生きる力の原動力となりつつあります。しかし、学校も五十歳、高齢化を迎え、あらゆる健康チェックが必要です。創立五十周年は時代の進展と社会の変化に対応する学校づくりの出発年と心し、なお発展していきたいと念じております。各位のご支援ご協力をお願い致します。

祝　辞

市川市長　高橋　國雄

市川市立第二中学校の創立五十周年を心よりお祝い申し上げます。

貴校は昭和二十二年五月に真間小学校の一部を借りて開校され、以来五十年もの間、万葉の時代から脈々と受け継がれてきた歴史と豊かな自然のなかで教職員、ＰＴＡ並びに地域の皆様が一体となって、「生徒一人ひとりを大切にした学校づくり」を実践されてこられました。

こうした取り組みが評価され、早くから「研究学校」として県より指定を受けたのをはじめ、これまで、市はもとより、文部省、ＮＨＫからも「研究学校」の委嘱を受けてこられました。

これもひとえに、歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様、並びに先生方と一体になって生徒の教育にあたってこられたＰＴＡ、地域の皆様のご労苦の賜物と心から敬意を表する次第です。

今日のように多量な情報があふれ、さまざまな選択肢が用意されている時代にあっては、個人個人が自ら考え、学ぶ姿勢が何よりも強く求められております。

貴校が早くから、こうした観点に立って、次代を担う若人を育成してこられたことは、大変素晴らしいことであります。

このたびの五十周年を節目として、貴校が父兄や地域に愛される学校として、ますますご発展されますことをお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

みんなの力で育つ中学校

市川市教育委員長　長谷川千代

新しい学制が施行され、小学校に続いて中学校が義務教育となって半世紀、市川市でも五つの中学校が創立五十周年を迎えることとなり、心からともにお祝いしたいと思います。

私が旧制女学校二年生になった時、つまり昭和二十二年四月、新学制が発足し、私たちは高校の併設中学校二年生に変わりました。

その頃は、教室・教材・教具等の不足で、青空教室や二部授業が行われ、先生や生徒はもちろん、関係機関の方々のご苦労は大変なものでした。

私が市川の中学校教員になった昭和三十年代は、一学級が五十五人で、教室は身動きができない程でしたし、経済的理由で進学を断念するお子さんもいました。今は、生徒の定員も一応改善され、世の中も豊かになりましたが、心を病む生徒がおりますし、いじめや非行など大人の社会を反映した問題を中学校は抱えております。

しかし、教職員の努力と地域の方々のご協力により、生徒が主体的に活動する授業、学校行事や福祉活動などが展開され、二十一世紀に生きる生徒たちのために、教育改革の工夫が始められております。困難な問題を抱える中学校、されど人生の中で最もすばらしい成長をする生徒の生活する中学校、この役割は重要です。今後とも市民の皆さんのご支援を願っております。

燃ゆる希望の若人　われら

市川市教育長　最首　輝夫

創立五十周年おめでとうございます。

五十年が瞬く間に過ぎた今、この地をふるさととする多くの若者たちが巣立ち、社会の一員として立派に活躍され、本校を母校として誇りに思っておられることは、五十年の歴史を重ね、素晴らしい伝統を培ってきた本校にとってまことに喜ばしいことと思います。

昭和二十二年の創立以来、学校も世の中の流れに対応して、様々な変化をしてきました。

しかし、「鴻の台の松の緑、常盤の調べ」のようにかわりなく今に受け継がれていることがあります。それは、昔も今も「花咲き匂う須和田が丘」から聞こえる明るい生徒たちの声です。この明るい声が絶えることなく、互いに認め、励まし、支え合う心豊かな生徒たちが育まれていくことを願って止みません。

また、常に「子どもたちの健やかな成長のために」という、地域の方々の献身的なご支援、ご協力により、学校で育まれた豊かな心が、各方面で人を動かす力となっておりますことに、敬意を表するとともに、深く感謝いたします。

そして二中を巣立った「燃ゆる希望の若人」が、二十一世紀にそれぞれ光輝くことを心よりご祈念申し上げます。

第二中学校創立五十周年によせて

PTA会長・創立五十周年事業実行委員長　田中　啓之

市川市立第二中学校創立五十周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

この記念すべき時を皆様方と共に迎え、お祝いできることを心より感謝申し上げます。

そして又、創立以来ここにめでたく五十周年の節目の時を迎えるに至までのこの間、歴代校長先生をはじめ諸先生方、諸先輩方、関係各位の多くの方々のご尽力やご協力により今日までに発展し、輝かしい伝統と歴史に支えられ、今日の素晴らしい環境と校風を樹立するに至ったと感謝いたしております。

私事ではございますが、私も本校の二十期の卒業生の一人であります。

その当時と今とでは、建物が木造から鉄筋に変わっているぐらいで、学校を取り巻く環境、校風は、少しも変わっていないと強く感じております。

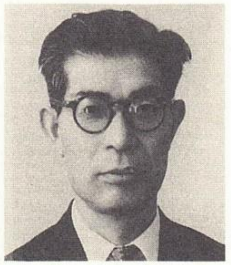
在校生の皆さん、この恵まれた二中の生徒であることに誇りと自信と勇気を持って、学習、部活動に励んでください。

私も学校とかかわれたことを大変光栄に思います。そしてここから次の素晴らしい区切りの時に向かって、新たな歴史さらなる飛躍に発展してくださることを、願って止みません。

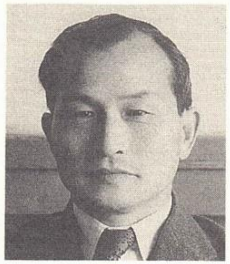
最後になりますが、この様な記念になる立派な五十年史を刊行して下さいました五十年史編集委員会の方々に、心より深く感謝申し上げます。

歴代校長

〈四代〉戸田　新先生
昭３３．４～３５．３



〈三代〉高橋　幸夫先生
昭２９．４～３３．３



〈二代〉長谷川喜三郎先生
昭２７．４～２９．３

〈初代〉高山　徳治先生
昭２２．４～２７．３

〈八代〉宇津木　勇先生
昭４２．４～４９．３

〈七代〉福原　健夫先生
昭３９．４～４２．３

〈六代〉江波戸　敏先生
昭３７．４～３９．３

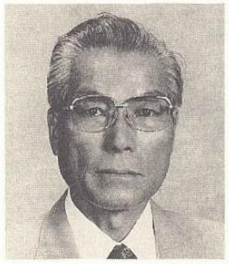
〈五代〉小倉　貞二先生
昭３５．４～３７．３

〈十二代〉菅原　尚先生
昭５９．４～６２．３

〈十一代〉秋葉　好輝先生
昭５７．４～５９．３

〈十代〉高山真木男先生
昭５４．６～５７．３

〈九代〉鈴木　昌男先生
昭４９．４～５４．５



〈十六代〉秋元　茂樹先生
平６．４～８．３

〈十五代〉飯島三千夫先生
平４．４～６．３

〈十四代〉宮本　勉先生
平２．４～４．３

〈十三代〉加藤吉太郎先生
昭６２．４～平２．３